

認定こども園当別夢の国幼稚園
稲刈りの様子【10月4日】

次世代への視点を重視した 28年度決算審査

▷雪が少なくても除排雪費は減らないの？

▷暮らしを守る

▷2040年2万人達成への取組みは？

▷ふれあいバス

9月11日～15日まで決算審査特別委員会を開催し、28年度の決算審査を行いました。

決算審査とは

決算審査は、会計年度（4月～翌年3月）毎に会計管理者が調製した決算について、町長からの審査依頼に基づき、決算書等の関係諸表の計数を確認すると

もに、予算の執行が効率的かつ有効なものとなっているかを主眼に実施する審査です。

一般会計
国民健康保険特別会計
下水道事業特別会計

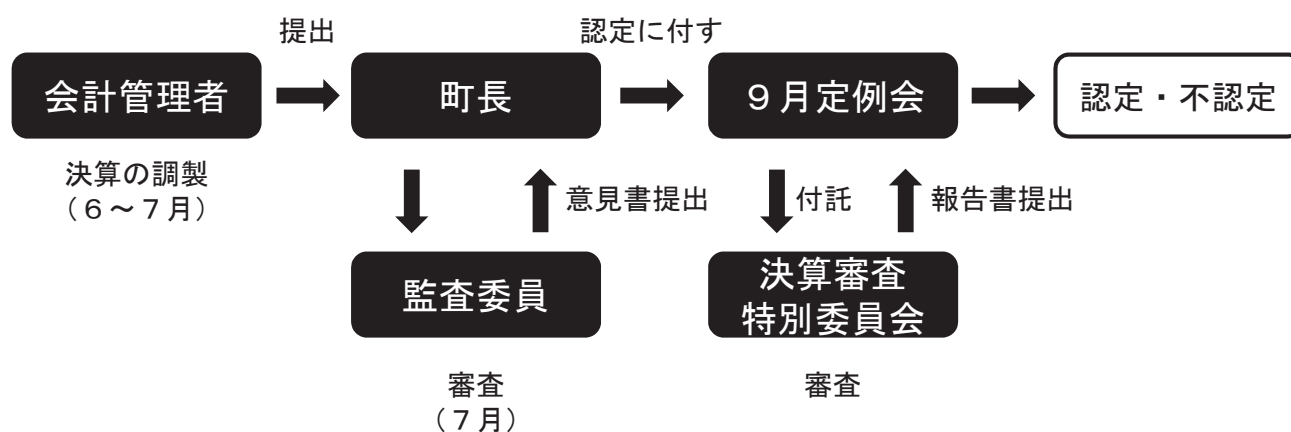
介護保険特別会計

介護サービス事業特別会計

後期高齢者医療特別会計

水道事業会計

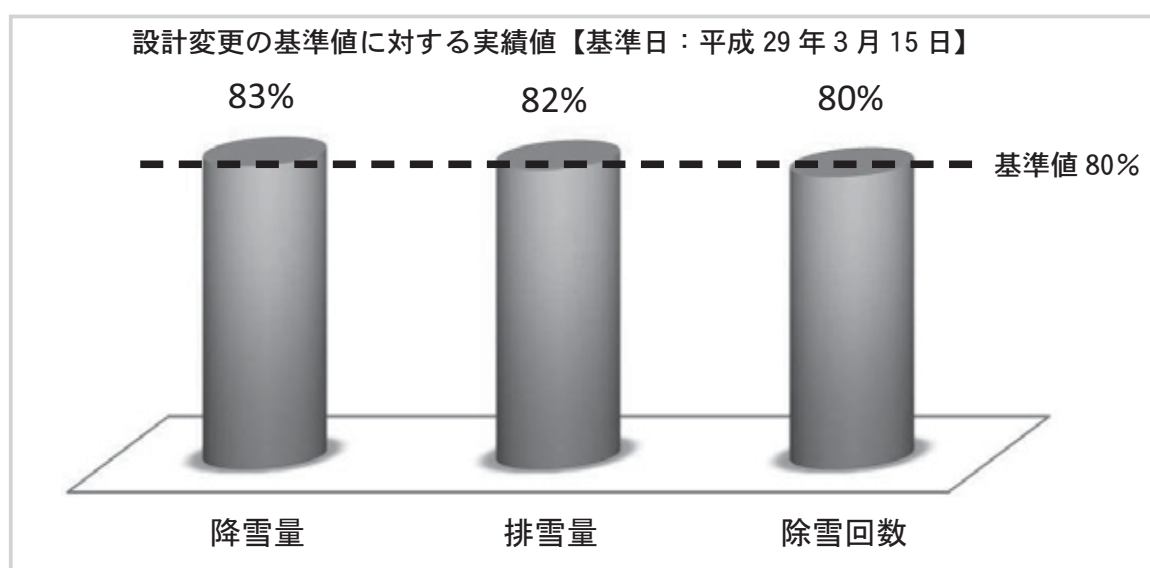
決算審査の流れ





今年の春は、年明け以降に雪が少なかったため、例年よりも早い雪解けを迎えました。雪が少ない冬だったと感じられた方も多いのではないのでしょうか。その一方で、28年度の除排雪

費は27年度に比べて2,006万5,000円(1.09%)増加しました。雪解けが早い冬だったのに、除排雪費はなぜ増えたのでしょうか。



除排雪委託費の減額基準

降雪量・排雪量・除雪回数が予定の80%以下なら減額。

【問】雪堆積場への堆積量が前年度より少ないのに、除排雪費が高くなったのはなぜか。

【答】決算額及び契約額は同額で決算した。降

雪量、排雪量、除雪回数が全て上限下限それぞれ20%以上超えた場合に設計変更をする契約であるが、それを満たさなかったためである。

除排雪費の上昇要因

人件費・燃料費などの上昇と除雪回数拡充が主な要因。

【問】除排雪の労務単価上昇の詳細は。

【答】特殊車両運転手、一般ダンプ運転手、ロータリー車運転手、世話役人、交通整理人等の単

価が、平均10%上昇している。また、軽油の単価も上昇し、除雪回数も拡充をしているため、27年度と比べると費用が上昇している。



樺戸雪堆積場の様子（平成 29 年 2 月 7 日撮影）

除排雪の苦情

置き雪には現地確認を行い対応し、苦情は減少した。

【問】除排雪に関して役場に寄せられる苦情の件数は。

【答】苦情は役場に 83 件、除雪業者に 17 件の合わせて 100 件で、前年度よ

り 51 件減少した。シーズン初めや 3 月の湿った雪の苦情が多い。置き雪は、現地確認をして対応しており苦情はかなり減ってきている。



生涯活躍のまちづくり構想

生涯活躍のまちづくり（CCRC）
構想で人口 2 万人に

【問】太美地区に 200 人増という構想で人口 2 万人の町を目指せるのか。

【答】今年から CCRC の取り組みを具体的に始める。（総合戦略の残りの期間

である）2 年間では、物的には難しいが、早期に開始し、人口増加に寄与できるよう取り組んでいきたい。



CCRC 構想の 1 つの核となる石狩太美駅

子どもの医療費助成拡充

乳幼児医療費助成の拡充で、どう変わったか

【問】昨年 8 月から拡充した制度で、対前年比はどのように推移したか。

【答】入院の拡充件数は 16 件の 45 万 4,131 円、外来における 3 歳から小

学校入学前まで 1 割負担を無料又は一部負担とする拡充の件数は、1,042 件 69 万 8,040 円、合計で 115 万 2,171 円が拡充部分である。

おためし暮らし

移住促進事業としての、おためし暮らしの成果は

【問】町の魅力を発信し、人口問題を見据える事業として手応えと展望は。

【答】移住促進事業の成果として 152 名の移住の実績があるが、夏季利用

の集中や地域間競争など課題もある。今後、協議会と連携し、利用促進に向け、自然や道の駅など町の魅力を PR し効果的に取り組む。

暮らしを守る

町営住宅の工事・修繕

「屋根の雪がスムーズに落ちるようになった。」との声

【問】工事請負費が例年より多いが、その内訳と費用対効果について伺う。

【答】92万円を増額して樺戸団地屋根塗装工事184万円、もみじ団地解

体工事1,898万円である。効果があったと思っている。今後も、修繕の部分をしっかり対応していきたい。

街路灯 LED 化

LED 化は各町内会でバラつきがある。今後の見通しは？

【問】普及率と今後の計画は。また、LED 化の効果を町内会へどう説明しているのか。

【答】平成28年度216灯実施で26.1%になり、

今後10年計画で100%の普及率にしたい。また、担当職員が電気代削減額等の情報提供を行い、実現を支援したい。



備蓄庫内の様子

災害時の備蓄

大規模災害に備えて備蓄はどうなっているの？

【問】防災資機材の備蓄は現在何名分を確保しているのか。

【答】当別町防災備蓄計画に基づき、発災後の当面3日間をしのぐ人数と

して1,400人分の食料等を計画的に備蓄し、また、広域的な連携の中で、民間事業者等と協定を結び流通備蓄も確保している。

ゴミの不法投棄

不法廃棄物の処理費が大幅に増えているが対策は？

【問】当別は自然豊かな所でゴミが隠れてしまう場所もある。不法投棄をさせない方法を真剣に考えるべきでは。

【答】不法投棄の取組は非常に重要。もっと良い対策と周知活動について先進的な取組を勉強して対策を講じていきたい。

ふるさと納税

返礼品として常時提供できる加工品を増やしていきたい

【問】冬場の返礼品対策、及び感謝イベントなどの対応を伺う。

【答】レトルトカレーなどに人気が出てきており、加工品で常時提供できるものを少しずつ増や

してきている。また、関東圏の寄付者に対しては、中野区の物産展会場で特別記念品の贈呈や物産品20%オフでの販売などを行っている。



ふれあいバス

市街地予約型線（デマンドバス）

高齢者が利用しやすい仕組みについても検討したい。

【問】デマンドの利用者数は。また、高齢者の免許返納の際には、デマンドは有効であると考えているが、どのような議論がされているのか。

【答】28年度の実績は、3,032人。また、高齢者施策にも有効と考えるので、高齢者福祉担当部局と連携しながら、課題について、検討を深めたい。

西当別道の駅線実証運行

町内から道の駅への利便性を確保したい。

【問】協議会では実証運行について、どう説明し料金設定について、どんな議論があったか。道の駅の利用促進も包括した路線確保なのか。

【答】西当別市街地と道の駅との移動の利便性確保が主で、料金は一般路線と同様と説明した。

西当別道の駅線実証運行

実証運行で料金面の課題が明らかになれば見直していく。

【問】太美から道の駅まで往復400円の料金設定は、本当に良いのか。例えば、道の駅で使った料金にあわせ、安くしたり、無料にできないか。

【答】初年度は、実証運行という形で、9月から運行させる。実証運行をして、乗り込みが悪い理由が料金設定によるものであれば、見直していく。

決算審査その他の主な質問項目

- ・高齢者等除雪サービス費
- ・国保特定健康診査の受診率
- ・後期高齢者健康診査の受診率 など

「適正な決算と認定」 決算審査特別委員会報告



平成28年度当別町各会計決算審査特別委員会
山崎委員長（写真左）古谷副委員長（写真右）

起草委員会

委員長	稲村勝俊
委員	山田明
委員	秋場信一
委員	五十嵐信子

※決算審査特別委員会の審査結果
報告文書を作成する委員会